

平成24年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業  
「小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成」

「腹部リンパ管腫及び関連疾患」分担研究班  
平成24年度 第三回班会議  
議事録

平成24年11月3日 9:50～11:20  
於 静岡県コンベンションアーツセンター  
グランシップ 11階 ラウンジ

参加者

岩中、木村、藤野（3名）

議題

1, 第二回会議議事録確認

前回議事録をスライドにて確認した。特に異論はなし。

2, 前回宿題であった腹部リンパ管腫に関する難治性診断基準を全国調査から統計的に解析した結果を確認した。(資料: 20121022 腹部スコア案)

- ・ 難治性か否かで統計的有意差のあった項目は「罹病期間(年)」、「病変数3以上」、「治療効果わずかに縮小・不変・増大」、「完全切除不能・部分切除不能」であった。これらにOdds比に基づいてスコア化を行った。

・ スコアリング

罹病期間(年) × 1  
+ (病変数3以上) × 6  
+ (治療効果わずかに縮小・不変・増大) × 5  
+ (完全切除不能・部分切除不能) × 3

すると10-13点あたりで感度70%弱、特異度が約90%となり最も妥当な診断

ラインであった。

- これに次に有意差の大きかった「四肢の運動障害中等度以上」というラインを加えても、感度・特異度はほとんど変化なかった。これはこの項目が上記の4つの難治性との関連が有意な項目のいずれかとほぼ完全に連動する結果となったためと考えられる。

### 3, 今後の方針

- このアンケート結果だけから当研究班の求めるべき結果を導くのはむずかしいだろう。もう少し焦点を絞った調査をする必要がある。
- そのために、もう一度過去のデータを見直し、部位別（腹部の中で）症状や治療効果との関係を列挙してみて、調べるべき点について検討する。（次回班会議での課題）
- その上で関連項目をクリニカルクエスチョンとして、文献サーチしガイドライン作成手順に則り整理する。それにアンケート調査結果を加える。
- 2年間の最終目標は、腹部リンパ管腫（乳糜腹水も含むかも）について部位、症状等から治療効果などのアンケート結果を踏まえた一つのガイドラインのようなものを作成する、とするのがよいだろう。（難治性の診断基準もそういった客観的データの方から出てくるだろう。）
- 調査結果は他にないデータとして発信できるだろう。
- 来年度末までの大まかな日程  
次回12月に過去データの検討、検討すべき項目の立案開始。  
年度内に協議を重ね、アンケートを完成。  
新年度には全国調査を開始する。（以前に調査済んでいる施設を含む）  
その際には謝金を準備する。症例数は恐らく500程度と見込まれる。  
秋頃にはデータを集計して指針をつくる。

#### 4, 今後の予定

- ・ 次回会議予定

12月3日(月) 18時頃 東京駅付近

出席可能人数が少ない場合の option として 12月2日(日)(横浜:小児がん学会の後)

#### (配布資料)

- 1, 20121022 腹部スコア案 (電子ファイル)
- 2, スクリーンショット 2012-11-03 9.46.19 (腹部表在・深部の難治性について)(電子ファイル)
- 3, 症例登録ページ例 (1-5) (電子ファイル)
- 4, 第2回腹部リンパ管腫及び関連疾患班会議事録 (電子ファイル)
- 5, 文献サーチ結果 (pubmed)(木下 Dr.)(プリント)

以上

平成 24 年 11 月 3 日

慶應義塾大学医学部 小児外科  
藤野 明浩